

# 第1回オヒョウの持続可能な利用方策検討会議事録要旨

日時：平成26年1月21日（火）14:00-15:25

場所：道庁本庁舎7階水産林務部1号会議室

## 1 出席者

構成員：北海道森林管理局総務企画部企画課長 尾前幸太郎  
北海道環境生活部アイヌ政策推進室参事 近藤裕司  
北海道経済部産業振興局産業振興課産業連携専門参事 大澤政昭  
北海道水産林務部森林環境局道有林課長 鈴木 匡  
（地独）北海道立総合研究機構林業試験場  
森林資源部経営グループ主査（育林） 大野泰之  
（地独）北海道立総合研究機構林業試験場  
森林環境部機能グループ主査（流域保全）長坂 有  
オブザーバー：二風谷民芸組合代表理事 貝澤 守  
平取町アイヌ施策推進課長 貝澤一成

## 2 議事及び発言要旨

### ○開会

挨拶 鈴木道有林課長

### ○議題

#### （1）会長の選出について

尾前企画課長から鈴木道有林課長を推薦する旨発言があり、構成員の同意を得て鈴木道有林課長を会長に選出。

#### （2）利用方策検討会の設置経緯について

資料2により、事務局から説明

#### （3）二風谷アットゥシ及びオヒョウに関する現状等について

##### ・アイヌ文化における自然素材の利活用の概要

資料3により、近藤アイヌ政策推進室参事から説明

##### （主な発言）

##### ➤ オヒョウの皮を剥いても枯れないのか？（大澤参事）

➤ 全周を剥がない限り、すぐに枯れることはない。（大野主査）

➤ 皮を剥ぐと木が生長するための形成層という細胞が破壊されるので剥いだ部分が元に戻ることはない（鈴木道有林課長）

##### ・伝統的工芸品「二風谷アットゥシ」の指定の経緯及び現状・課題

資料4-1、4-2により、大澤産業連携専門参事から説明

##### ・オヒョウの樹種特性、造成方法

資料5により、長坂主査（流域保全）から説明

##### ・オヒョウの分布

資料6、7により、大野主査（育林）から説明

##### ・オヒョウの径級分布予測

資料8により、大野主査（育林）から説明

（主な発言）

- オヒョウを植栽した場合、直径 20cm 以上になるのに何年かかるのか（貝澤代表理事）
- シミュレーションは天然林のもので林齢は分からないが、5cm 以上の樹木が何年後にどこまで成長するかは予測できる（大野主査）
- 成長の良いカンバ類でも 30 年以上かかっており、オヒョウが 20cm 以上になるには最低でも 30 年はかかると考えた方がいい（長坂主査）
- 径級分布データは固定成長量調査地のものを使用？（鈴木道有林課長）
- 径級分布予測は、森林生態系多様性基礎調査の 1 プロットの調査データを使用、シミュレーションは固定成長量調査地のデータから作成（大野主査）

・国有林におけるオヒョウ樹皮採取について

資料9により、尾前企画課長から説明

（主な発言）

- 国有林でオヒョウ樹皮を採取する場合は、作業の効率が良いことや労働安全、さらには、樹皮を剥いで伐倒しないでおくことでエゾシカの食害を誘発する危険性もあるため、木を一本丸ごと買い上げていただき、伐倒してから樹皮を採取する方法をとっている（尾前企画課長）
- オヒョウ資源量は十分あるが、利用可能な条件の良い所は探すのが難しい。国有林でもそうした箇所を確保して提供したい。（尾前企画課長）

（4）オヒョウの持続可能な利用方策について

・利用方策検討会の進め方

資料10により、事務局から説明

（主な発言）

- オヒョウの採取地区の具体的な設定はどの段階でいつ実施するのか（近藤アイヌ政策推進室参事）
- オヒョウ採取地区の候補は道有林内で調査済み。国有林はトマム地区で数年分は確保可能。方策の中では、採取地区設定の基本的な考え方などを示し、個々の採取地区については記載しない（事務局）

・「利用方策」の骨子について

資料11により、事務局から説明

（主な発言）

- アットゥシの製造見込み量については、今後二風谷民芸組合が振興計画に基づいた取組をしていく中で、製造量の増加も見込まれるので、こうしたことを反映させるべき（貝澤アイヌ施策推進課長）
- 利用量については地元の意見を十分聞きながら利用方策をまとめていきたい（鈴木道有林課長）
- 更新方法についてだが、林道脇に更新しているオヒョウ稚樹の移植についても有効な手立てなので検討して欲しい（貝澤アイヌ施策推進課長）

- 山取り苗の活用についても採用できるか検討する（鈴木道有林課長）
- 旭川の道有林に生育しているオヒョウは通直で樹高も高く優良な材料の採取が可能。通直なオヒョウの育成方法についても検討して欲しい（貝澤アイヌ施策推進課長）
- 広葉樹の育成は道有林でもヤチダモ造林などを行った事例はあるが、コストもかかり、技術的に難しい部分が多い（鈴木道有林課長）
- 資料10の進め方（案）、資料11の骨子（案）については、ただいま頂いた貝澤アイヌ施策推進課長の意見などを踏まえながら検討していくということで、案のとおり了承いただいたということで、よろしいか？（鈴木道有林課長）
- （異議なし。）
- では、資料11の利用方策の執筆分担についてですが、1は事務局の道有林課、2（1）のアイヌ文化の部分はアイヌ政策推進課、2（2）の二風谷アットゥシの概要の部分は産業振興課、3オヒョウの樹種特性とその分布については林業試験場、4については、各構成員に関連する部分が多いため、道有林課で大枠を整理し、各構成員と調整、5オヒョウの造成技術については林業試験場、6原材料確保に係る連携体制については北海道森林管理局と道有林課が分担して執筆作業を進めていきたい。以上のとおりお願いする。（鈴木道有林課長）
- 今後のスケジュールについて  
資料12により、事務局から説明  
（主な発言）
  - 来年度は道有林上川南部管理区からの採取を予定しているが、現地はツルが多いため、2カ年分の調査を行い翌年伐採分の林分のツル切りを行うなど、段取りについてそれぞれの立場で考えてもらいたい（鈴木道有林課長）
  - スケジュール（案）について、特に意見がないようなので案のとおり決定したい。（鈴木道有林課長）

（5）その他

次回開催予定は3月、議題としては、利用方策（案）の検討を予定しています。各構成員の皆様には執筆作業を進めていただき、メール等で調整しながら方策案を作成してきたいのでご協力願う。（事務局須田道有林課主幹）

以上